

創立 60 周年を迎えて

熊谷ロータリークラブ会長 藤 間 憲 一



昭和 28 年 10 月 9 日、熊谷ロータリークラブが誕生、以来 60 年の歳月を重ね創立 60 周年記念式典が来賓各位、並びに多くの友好ロータリアンの御出席をいただき、盛大に開催出来ますことを、全会員と共に心より御礼申し上げます。

60 年は還暦や耳順で言われるように、人生のなかでも大きな節目であるとともに、自らの原点に戻り創始の心へ回帰することに大きな意義があると思います。顧みれば、創立前に川越ロータリークラブの伊藤長三郎氏、山崎嘉七氏や東京ロータリークラブの柏原孫左衛門氏を中心に、多くの皆様の御指導により設立気運が高まり、10 月 9 日、八木橋本次郎氏を中心に 25 名の会員により熊谷ロータリークラブが設立されました。

当時の記録によりますと、当日はスポンサークラブとして東京、川越の両クラブより、柏原氏（東京）、伊藤氏、山崎氏、石川氏（川越）の御参会を得て発会式が挙行され、クラブ事務所及例会場は埼玉銀行熊谷支店内、例会日は毎週金曜日 12 時 30 分より 13 時 30 分迄の 1 時間と決定されました。又東京ロータリークラブより熊谷ロータリークラブの創立を祝して「鐘と旗」が贈られて、会場に飾ることになりました。会長に八木橋本次郎氏、副会長に清水好一氏、幹事に尾高浩一氏が就任し、仮クラブとして誕生したのであります。

しかし最も注目すべきことは、当時の熊谷が、焦土と化した市街地などの戦災復興途上にあり、熊谷の有力経済人が自らの経営基盤づくりに奔走するなかで、東京、川越両クラブの熱心な勧誘を消化し、自らの意思で奉仕の機会を作った慧眼に心より敬意を表するところであります。

創立時のロータリー理念として後の四つのテストになる

1. 日常を真実に
2. 日常を公正に
3. 行いを奉仕で
4. 行いを善意と友情で

を基軸にしつつ、時の R I 会長ホアキン S シビルス氏 1953 ～ 1954 の指針である「クラブが増えれば友人が増す 友人が増えれば奉仕の機会を増す」を理解し、行動したことが熊谷ロータリークラブの理念の原点になっていたと思われます。

その後同年 11 月 13 日に、国際ロータリーに加盟が承認され、翌昭和 29 年 10 月 30 日に認証状伝達式が挙行されました。以来年々拡大、充実を図るとともに、地区年次大会の開催、新クラブの結成、数々の奉仕事業など輝かしい歴史を重ね、現在地区最大の会員数 93 名を有するクラブとして発展いたしました。

そして本年、共創、共助、共感をもとに、「誇りあるクラブを目指して」を 60 周年のスローガンとし、時代の大転換期における新たな役割を議論し、「社会が如何にしたら良くなるか、如何にしたら青少年を善導出来るか」という創立時の目的を糧とし、将来の奉仕の理想実現に邁進する所存であります。

本日は誠に御多忙のなか、多数の皆様の御来会をいただき重ねて御礼申し上げますとともに、各ロータリークラブの益々の発展を祈念申し上げます。

新しい活動の創造を

熊谷ロータリークラブ
創立 60 周年実行委員長 大 澤 孝 至



20 世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で商業道德の欠如が目につくようになっていました。この様な環境のもと、1905 年 2 月 23 日にシカゴロータリークラブが青年弁護士ポール・ハリス氏と友人 3 人によって誕生しました。そしてその後、次々と各地にクラブが誕生し、今では 200 以上の国と地域に広がり、クラブ数 34,416、会員総数 121 万人超に達しております。我が国のロータリークラブは、1920 年 10 月 20 日 東京ロータリークラブが創立され、翌年 4 月 1 日に世界で 855 番目のクラブとして国際ロータリーに加盟承認されました。

我が熊谷ロータリークラブは、1955 年（昭和 28 年）10 月 9 日に川越ロータリークラブのスポンサーにより日本で 108 番目、埼玉県下 2 番目のロータリークラブとして誕生いたしました。そして、50 年の節目の年を経て、今ここに創立 60 周年を迎える事が出来た事は、会員一同深い感動を覚えると共に、地域の皆様方、そしてロータリアン諸兄の皆様のご指導ご協力の賜物と深く感謝とお礼申し上げます。

昭和 28 年設立当時、初代会長 八木橋本次郎氏以下、25 名の諸先輩達は大変なご苦勞もあったと思われますが、ロータリアンとして夢と希望と誇りを持ちつつ、クラブ活動に励んだ事と思われます。その後、60 年を経た今日、熊谷ロータリークラブは、総勢 93 名の会員数を誇り、地区一番の会員数を有しており、会員各々、各界にて活躍中の皆様であります。会員一人一人がキラリと光り輝いているからこそ、我がクラブの会員数が多い要因と思われます。

一方、今年の藤間会長のクラブ運営方針の中で、「共創、共助、共感で誇りあるクラブを」というテーマのもとに創立 60 周年事業を推進して参りました。そして記念事業として

1. クールシェアくまがや 打ち水作戦 クールスポット事業の実施
 2. ロータリー地域共同隊 R C C
 3. 熊谷駅開業 130 周年を祝し「シンボル時計の寄贈」 30 年前に熊谷 R C が開業 100 周年記念として寄贈した時計を新調させてもらいました。
 4. 60 周年記念誌の発行
- 等々、記念事業を行って参りました。

60 年という節目は、大きな節目の 1 つかもしれませんが、別の見方からすれば単なる 1 つの通過点に過ぎないという事から、時節柄あまり華美にならず、出来るだけ質素に各事業、式典を実行させて頂きました。

そして、我が熊谷ロータリーは、60 周年を経た今日、原点回帰を行い、諸々の活動を見直し、更なる新しい活動を創造すべく前進して参ります。

その為に、記念講演として、明治天皇の玄孫にあたる竹田恒泰先生をお招きして、日本の誇り、熊谷の誇りをサブテーマとして、「日本はなぜ世界で一番人気があるのか」をテーマに講演を企画させて頂きました。

竹田先生の著書の中に、日本の誇りの一つに、日本文明の最大の特徴で大自然との調和として自然崇拜を行ってきた民族で、国土と国家を持ち、一定人口と国力を持つのは日本民族だけであり、日本は既存する世界最古の国家であり、2 千年以